〔一般教養科〕

〔区 分 A〕

鹿毛 敏夫

日本“九州大邦主”大友氏与舟山岛

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

舟山普陀与東亜海域文化交流（中国浙江大学出版社）、pp153-161、(2009.11)

“九州大邦主”大友氏在日本的镰仓至室町幕府体制下、即13～16世纪期间、长期担任九州丰后国的守护一职。作为武家名门、其系谱绵延四百年间、二十二代。尤其是关于大友家历代领主在室町幕府推行的对明交涉中所发挥的各种形式作用的相关记载、笔者在其他拙文中已有所论述。领主（日本史所谓的“守护大名”、“战国大名”）的传统特点被定性为、在环东海海域通交圈上一隅的九州上拥有领地、具备建造大船的技术和财力、而且能够组织以直辖水军为轴心的领国沿岸的海上势力、并保持这种政治力和军事力。

那么、拥有这样的地理环境和历史传统的“九州大邦主”大友氏、随着室町幕府推行的勘合贸易的崩溃、16世纪中期以后、是以何种姿态与东亚宗主国的明朝开展外交交涉的呢？其次、其动向在当时东亚国际秩序中又应如何定位呢？为了阐明本课题、本文从现存极少的文献中、挖掘出大友氏派遣到中国的外交使节的具体人物及其活动状况。其中特别把距离中国对外交涉窗口--宁波不远的浙江舟山群岛上的登陆人物的交涉活动作为重点、考察舟山群岛对于大友氏使节团的历史意义。

鹿毛 敏夫

書評 光成準治著『中・近世移行期大名領国の研究』

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

日本歴史（日本歴史学会）、第732号、pp123-125、(2009.5)

日本の歴史展開過程において、16世紀後半から17世紀初頭にかけての時期を分析する営みは、極めておもしろい。中世の社会的秩序が崩れていくなかで、近世的秩序がいかに形づくられていくのか。その展開過程の分析で明らかになった事実は、現代から未来を見通す道しるべにもなりうるはずである。本書が分析対象とする毛利氏については、すでに『戦国大名毛利氏の研究』が秋山伸隆氏によって本書の9年前に上梓され、毛利氏が「国」支配の論理によって統治権的支配権を行使し、法と官僚制の整備を指標とする公権力化を進めて、大名を頂点とする身分的秩序編成がなされたことが明らかにされている。本書評では、本書著者がそこに「移行期」へのまなざしを添えることで領国構造の動態を描き出そうとしたことに特色があることを指摘した。

木本 伸

文学はごみである―ベルにおけるフモールの概念をめぐって―

木本 伸*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

広島ドイツ文学第、23 号、広島ドイツ文学会編、pp. 87-98, (2009. 9.)

ハインリヒ・ベルにおけるフモールの概念を中心とした文学論である。

福光優一郎

『WEB英語学習教材を活用した低学年自学自習 ―実践、結果、そして今後の課題―』

荒木陽子*, 福光優一郎*
*新居浜工業高等専門学校一般教養科

全国高等専門学校英語教育学会研究論集, 第29号, pp.139-147, (2010.03)

This article examines a program to encourage younger students to learn English, using ALC Net Academy 2 to nurture their habit to study English outside the classroom, so as to go beyond the time limitation of a school curriculum. A study on students who entered NNCT in 2006 shows that the experimental program started in 2008 does have a positive effect on their autonomous learning. Future improvements of the program, such as the creation of a well-organized preparatory session, and a change in school policy to make TOEIC IP or TOEIC Bridge IP compulsory are expected to encourage students more toward self-learning using English e-learning materials.

〔区 分 B〕

鹿毛 敏夫

佐賀関港の「みなと文化」

鹿毛敏夫*
*新居浜工業高等専門学校一般教養科

港湾空間高度化環境研究センターHP、pp112.1-112.15、(2010.1)

奄美大島や種子島等の薩南諸島から日向灘へと抜ける黒潮（日本海流）の流れは、四国と九州のリアス式海岸が対峙する豊後水道を入り口として、瀬戸内海に入り込む。この豊後水道に面する九州東端の「海部郡」地域は、『和名類聚抄』では「安万」と訓まれるが、その郡名について、『豊後国風土記』は「此郡百姓竝海辺白水郎也、因曰海部郡」と説明している。古代の海部は、この海域の豊かな海産物の貢納と航海技術によって朝廷に奉仕したと推測され、『延喜式』によると、多様な鰒（鮑）の加工品や堅魚（鰹）等が豊後国からの調や中男作物として貢進されている。本稿では、この古代の海部の系譜を引く東九州の伝統的な港町佐賀関の現地調査を行い、その文化や伝統の特質をわかりやすく解説した。

〔区 分 C〕

鹿毛 敏夫

アジアン大名家から生まれたキリシタン大名

鹿毛敏夫*
*新居浜工業高等専門学校一般教養科

海路（海鳥社）、第8号、pp20-31、(2009.6)

14世紀から16世紀にかけての九州地域の領主は、日本史で「守護大名」や「戦国大名」と呼称する日本国内の一地域公権力の政権定義の枠組みをはるかに越え、大陸に近い九州の地の利を活かして、アジア史の史的展開のなかに自らの領国制のアイデンティティを追求しようとする国際的地域政権の性質を有する。そのアジア的志向性は、当該政権の政治・外交・経済・文化のあらゆる面で底通する本質を有していることから、本稿では、こうした領主を、アジア的守護・戦国大名、通称「アジアン大名」と呼称することを提唱した。

鹿毛 敏夫

アジアから見た豊後大友氏

鹿毛敏夫*
*新居浜工業高等専門学校一般教養科

大分合同新聞、(2006.6.17～連載継続中)

九州の戦国大名大友氏が活動した15・16世紀は、世界史上の大航海時代に相当する。この時代、西日本各地の地域権力は、日明・日朝関係を軸に自らも主体的なアジア外交を展開し、東アジアには環シナ海交流圏とも呼べるマクロな文化圏が形成された。海域交流史における近年の活発な研究蓄積の成果を一般向けに広く還元するために、新聞紙上の連載企画として、中世日本の歴史をアジア諸国との関わりのなかで叙述する記事を2006年度から引き続き4年間執筆している。今年度分の連載は、以下の21テーマ。4/6「木造帆船の時代」、4/19「豊後とカンボジアの交流」、5/10「カンボジア国王と宗麟」、5/24「アンコール・ワットの落書き」、6/7「カンボジアから来たゾウ」、7/5「カンボジア国王船の積み荷」、7/19「大友貞宗と吉祥寺」、8/2「群馬に伝わる氏時伝説」、8/16「もう一つの『大友館』」、9/6「大友貞宗の政治」、9/20「遣明船の上陸地」、10/4「寧波の発掘」、10/18「日明貿易のかけひき」、11/1「皇帝謁見の旅」、12/6「海洋王国の栄華」、12/20「ヴァスコ・ダ・ガマの棺」、1/10「インドのユダヤ商人」、1/24「黄金のゴア」、2/7「インドのザビエル」、3/7「ロヨラとザビエル」、3/21「ザビエルのアジア宣教」。なお、連載は次年度以降も継続予定である。

竹原　信也

公共政策学における法の位置づけに関する基礎的検討

竹原信也*
*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第46巻、pp63-72、(2010.4)

現在の日本は、福祉国家、行政国家であると表現されるように数多くの、様々な政策が実施されている。その際、法は政策実施に根拠を与え、また政策実施を統制するものとして、市民の生活・活動に大きく影響を及ぼしている。だからそうした法のありようを主題化して研究を行うことの必要性が存在する。けれども、法は予算や計画と並ぶ政策の有力な規範の一ではあるが規範の全てではないし、法のみを主題化して理解することは政策科学や公共政策学が行う政策分析にとってはよりよい理解への妨げになってしまうかもしれない。けれども、法を全く無視した公共政策学も現実的とは言えないし、また適切でもない。こうして現在まで、行政学、行政法学、法社会学、公共経済学といった様々な学問分野や実務家から、法と政策をめぐって、様々な角度から、様々な分析がなされている。ただし、これら様々な業績が政策科学への寄与を第一義として考察・整理されることはあまりにない。そこで、政策科学、公共政策学に対し、有益な知見を提供し、理論接続が可能でかつ導入・実践可能な形で整序された「法」の知識が必要となってくると思われる。本稿では、このような問題関心の下で、行政過程に焦点をあててこれまでの様々な分析を概観し整理し、今後の研究課題の抽出を試みた。具体的には2 章では、法社会学の法過程というパースペクティブの理解と、実践的な法制度設計を論じようとする近年の立法学や政策法務の理論を概観した。続いて3 章では、法哲学や、法社会学、行政学などから得られた様々な知見を概観した。最後に、こうした様々な知見から得られる示唆をもとに体系的理解を目指しつつ、今後の研究課題を模索した。

〔区　分　D〕

野田　善弘

『日遊裁纏』訳注

野田善弘*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

平成21年度科学研究費補助金報告書（2010年3月）

本報告書は、民国時期東南大学の代表的知識人、柳飴微（1880～1956）の明治日本体験記、『日遊彙編』を訳解したものである。柳飴微は、その著作に日本人の研究成果を多く取り入れていて、日本学術界との関は非常に深い。『日遊彙編』は、柳飴微と日本との関係を研究するうえで貴重な資料であるとともに。明治日本の教育思想や清末中国人の日本観を理解する際にも役立つ。なお、本報告書は、平成21年度科学研究費補助金（基盤研究（C））「柳胎徴とその周辺－東南大学知識人の発展的研究－」（19520048）の成果の一部である。

〔区　分　E〕

鹿毛　敏夫

The Paintings, Maps, Documents, and Relics about“Bungo”

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

Lisbon International Workshop“Maritime Trade in East Asia from the 15th to 18th Centuries”(ポルトガル・リスボン)、(2009.11)

Anthony van Dyck painted oil painting in 1641. Now, it is in Pommersfelden, Germany. They titled it “St. Francis Xavier befor Daimyo of Bungo”. The matter is who is Daimyo of Bungo. His name is Otomo Sorin. In Bungo, we started to excavate the 16th century's ruins, from 10 years ago. Then we found many relics. For example, a medal of christian, a tomb of Japanese christian of 16th century, many Chinese ceramic wares. The ceramic eares that we found are not only from China, but also from Southeast Asia, Myanmar, Thailand, and Vietnam. An inland area of Bungo, there are many active volcanos. We can collect many sulfur. So, Bungo exported ore of sulfur to other countries in the 15th and 16th centuries.

木本　伸

ヒルシュビーゲル『エス』試論－もうひとつの近代への希望－

木本　伸*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

日本独文学会秋季研究発表会、名古屋市立大学、（2009.10.18.）

ヒルシュビーゲル監督によるドイツ映画『エス』の作品解釈である。

木本　伸

デーリウス『僕が世界チャンピオンになった日曜日』試論

木本　伸*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

日本独文学会中国四国支部研究発表会、香川大学、（2009.11.21.）

デーリウス『僕が世界チャンピオンになった日曜日』の作品論である。

福光優一郎

WEB 英語学習教材を活用した低学年自学自習ー実践、結果、そして今後の課題

荒木陽子*、福光優一郎*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

全国高等専門学校英語教育学会第 33 回研究大会　2009 年 9 月

高等専門学校における英語教育はその必要性が認識されている一方で、カリキュラムの関係上、授業時間が十分確保できていない現状がある。このような状況の下、学生に早い段階で自学自習の習慣を定着させ、継続的に英語力の向上を図っていくことは重要な課題である。新居浜高専では昨年度から低学年に対して ALC NET ACADEMY2 を利用した自学自習を実践しており、本発表では実践内容とその結果そして今後の課題を述べる。

福光優一郎

An ERP Study on the Semantic Processing of Native Language in Children Enrolled in a Foreign Language Immersion Program

Yuika Suzuki[*1/*2], Junichi Takahashi[*1/*3], Hiroshi Shibata[*2/*4], Yuichiro Fukumitsu[*5], Jiro Gyoba[*1/*3], Hiroko Hagiwara[*3/*6], Masatoshi Koizumi[*1/*3]

[*1]Graduate School of Arts an Letters, Tohoku University, [*2]Japan Society for the Promotion of Science, [*3]RISTEX, Japan Science and Technology Agency, [*4]Graduate School of Informatics, Kyoto University, [*5]Department of Human Science, Niihama National College of Technology, [*6]Graduate School of Humanities, Tokyo Metropolitan University

18th International Society for Brain Electromagnetic Topography　2009 年 10 月

英語イマージョンプログラムによる教育を受けている日本人の幼稚園児を対象として、その母語である日本語の音声刺激を聴取している際の事象関連電位を測定した。意味が文脈から逸脱する文の聴取時に観察された陽性成分と陰性成分は、上記プログラムによる教育を受けている同年代の幼稚園児と比較し、その潜時および分布が異なり、早期に非母語の言語に触れることで母語の処理に影響があることが示唆された。

福光優一郎

Effects of development and non-native language activities on the semantic processing of native language in preschool children

Junichi Takahashi[*1/*2], Yuika Suzuki[*1/*3], Hiroshi Shibata[*3/*4], Yuichiro Fukumitsu[*5], Jiro Gyoba[*1/*2], Hiroko Hagiwara[*2/*6], Masatoshi Koizumi[*1/*2]

[*1]Graduate School of Arts an Letters, Tohoku University, [*2]RISTEX, Japan Science and Technology Agency ,

[*3]Japan Society for the Promotion of Science, [*4]Graduate School of Informatics, Kyoto University, [*5]Department of Human Science, Niihama National College of Technology, [*6]Graduate School of Humanities, Tokyo Metropolitan University

18th International Society for Brain Electromagnetic Topography　2009 年 10 月

言語発達の途上である日本語を母語とする幼稚園児を対象として、日本語の意味の不自然な文を聴取しているときの事象関連電位を 1 年に 1 度、3 ヵ年にわたって測定し、発達に伴って事象関連電位の成分、潜時および分布が変化するのか（変化しないのか）の追跡調査を行った。その結果、発達に伴って出現する成分が異なり、また同一の成分であってもその潜時や分布が変化することが明らかになった。

竹原　信也

地方自治体の立法過程と条例･規則の分析－愛媛県新居浜市を対象に－

竹原信也*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

平成21年度日本法社会学会学術大会（2009.5）

前年度に、新居浜工業高等専門学校紀要にまとめた論文を、改善して報告を行った。具体的には、事例研究として愛媛県新居浜市を対象に条例・規則の制定プロセスを調べ、次に、そのプロセスを通じてどのような条例・規則が生み出されているのか分析を試みたのでこれを報告した。調査方法としては、まず、資料やインタビュー調査により、新居浜市条例・規則の立案、制定のプロセスを調べた。次に、そのプロセスを通じてどのような条例・規則が生み出されているのか分析を試みた。分析方法としては、先行研究を参考にしながら、所管別、時系列、内容別に分析した。また、条例・規則の文言にはどのような言葉が現れるのか、一部テキストマイニングソフトの助けを借りながら分析した。

報告内容としては（１）条例や規則の制定過程においては、執政部の職員によって作成されていることがパターン化していること、議会への承認に向けて、執行部職員がフォーマル、インフォーマルな場で議員と様々な調整をしていること、議会の議案可決率が高く、修正率・否決率は低いことなどから、総じて執行部優位の状況を作り出しており、こうした態様は先行研究で指摘されていることと概ね一致していると結論付けた。

（２）条例・規則の制定内容の分析については、上記の「ルーティン化された生産過程」から生み出された集合的所産としての「条例・規則」を分析したいと考えた。そこで、一つの試みとして、新居浜市の HP に掲載されている例規集をもとに現行の条例をテキストデータ化し、一部、テキストマイニングソフトを利用しながら、分析を試みた。まず、新居浜市の条例・規則等を所管別、時系列、内容別に分類した。次に利用して条例中に出てくる市長、職員、住民、議員といったアクターがどのように示されているのかを抽出した。そして、条例中に出てくる権利や義務を規定する言葉を抽出した。最後に、これらをもとにして両者がどのように関係しているのか検討してみた。